

[前画面へ戻る](#)

④ 科目名	解剖・組織学
④ 科目名(英訳)	Anatomy & Histology
④ 科目ナンバー	LB179A01
④ 詳細情報	授業外学修時間:週4時間
④ 担当者 (非)は非常勤講師	西沢 祐治 榊原 明
④ 単位数	2
④ 開講学年	1年
④ 開講セメスター	春期毎週
④ 対象学科 選択・必修	必修:LB 選択:
④ 他学科受講	
④ 履修順序・履修情報	類似科目情報あり
④ 担当者及び時間割	【春学期】 榊原 明・西沢 祐治:木3-4
④ カリキュラムの中での位置付け /DP(ディプロマ・ポリシー)	医学の基礎である人体の理解のために、「生命健康科学基盤科目」の「人体の構造と機能」の科目の中に、生化学、生理学、生命物理化学と解剖・組織学がある。生化学は生体を構成する物質の側面から、生理学は生体の機能を中心として、生命物理化学は生命活動に関わる物理化学家を学習するのに対し、解剖・組織学は形態や構造を中心として人体を捉えようとするものである。学生はこれらの知識を総合することにより、人体の各部分がどのような構造を持ちどのような組織や物質からできており、どのように働くかが理解できる。これらは以後の専門基礎科目、専門科目のすべての基礎であるが、解剖・組織学はとくに病理学、臨床病理学等の学習には欠かせない知識である。 【ディプロマ・ポリシー(DP)】2024年度入学生以降対象 ①:○ ②:◎ ③-(2):○
④ 身につく基礎力 / 身につく汎用力	調査・情報収集力 傾聴・受信力 / 豊かな教養 思考力 学び続ける能力

④ 授業の主旨 (概要)	医療・医学・健康に貢献する専門職業人は、人体の正常な構造を修得していることが必須である。解剖学は人体の構造を理解するための学問である。人体は前後・左右・上下の軸を持ち、種々の臓器からなる。各臓器はそれぞれの機能により器官系を構成する。さらに、各臓器は種々の細胞群(組織)の組み合わせでできている。主な器官系(循環器系、神経系、消化・呼吸器系、内分泌系、皮膚および感覚器系、運動器系)について、それらを構成する各臓器の形態と構造(肉眼的構造)、人体での位置・他の臓器との繋がりについて学ぶ。体表から深部の構造を理解する力をつける。また、主要組織(上皮、結合、神経、筋)の種類と特徴について学び、これらの組み合わせによる各臓器の組織構築(組織学)を学ぶ。															
④ 具体的 達成目標	(1)人体構造の軸、階層性について説明できる。 (2)器官系を挙げることができる。 (3)器官系の名称に対して、それを構成する臓器名を挙げることができる。 (4)臓器名に対しては、その形態・構造と人体での位置および組織構築を説明できる。															
	<table border="1"> <tr> <td rowspan="2">1</td> <td>【内容】</td> <td>【第1週】 解剖学概論(解剖学の歴史、人体の基本単位、細胞・組織・器官・器官系)</td> </tr> <tr> <td>【授業外学習】</td> <td>予習:教科書第1章を読んでおく。 復習:授業の内容を教科書にそってまとめる。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">2</td> <td>【内容】</td> <td>【第2週】 骨格系1(骨の構成、人体の骨格、関節の構造、靭帯)</td> </tr> <tr> <td>【授業外学習】</td> <td>予習:教科書第5~8章の各イントロダクションを熟読し、章全体を読んでおく。 復習:授業の内容を教科書にそってまとめる。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">3</td> <td>【内容】</td> <td>【第3週】 骨格系2(骨の構成、人体の骨格、関節の構造、靭帯)</td> </tr> <tr> <td>【授業外学習】</td> <td>予習:教科書第5~8章の各イントロダクションを熟読し、章全体を読んでおく。 復習:授業の内容を教科書にそってまとめる。</td> </tr> </table>	1	【内容】	【第1週】 解剖学概論(解剖学の歴史、人体の基本単位、細胞・組織・器官・器官系)	【授業外学習】	予習:教科書第1章を読んでおく。 復習:授業の内容を教科書にそってまとめる。	2	【内容】	【第2週】 骨格系1(骨の構成、人体の骨格、関節の構造、靭帯)	【授業外学習】	予習:教科書第5~8章の各イントロダクションを熟読し、章全体を読んでおく。 復習:授業の内容を教科書にそってまとめる。	3	【内容】	【第3週】 骨格系2(骨の構成、人体の骨格、関節の構造、靭帯)	【授業外学習】	予習:教科書第5~8章の各イントロダクションを熟読し、章全体を読んでおく。 復習:授業の内容を教科書にそってまとめる。
1	【内容】		【第1週】 解剖学概論(解剖学の歴史、人体の基本単位、細胞・組織・器官・器官系)													
	【授業外学習】	予習:教科書第1章を読んでおく。 復習:授業の内容を教科書にそってまとめる。														
2	【内容】	【第2週】 骨格系1(骨の構成、人体の骨格、関節の構造、靭帯)														
	【授業外学習】	予習:教科書第5~8章の各イントロダクションを熟読し、章全体を読んでおく。 復習:授業の内容を教科書にそってまとめる。														
3	【内容】	【第3週】 骨格系2(骨の構成、人体の骨格、関節の構造、靭帯)														
	【授業外学習】	予習:教科書第5~8章の各イントロダクションを熟読し、章全体を読んでおく。 復習:授業の内容を教科書にそってまとめる。														

● 授業計画	4	【内容】	【第4週】 筋系1(筋の構造, 人体に存在する主な筋肉, 体幹の筋)
		【授業外学習】	予習:教科書第9~11章の各イントロダクションを熟読し、章全体を読んでおく。 復習:授業の内容を教科書にそってまとめる。
	5	【内容】	【第5週】 筋系2(筋の構造, 人体に存在する主な筋肉, 体肢の筋)
		【授業外学習】	予習:教科書第9~11章の各イントロダクションを熟読し、章全体を読んでおく。 復習:授業の内容を教科書にそってまとめる。
	6	【内容】	【第6週】 神経系1(神経伝達と効果器, 中枢神経系, 神経伝達路)
		【授業外学習】	予習:教科書第14, 15, 17章の各イントロダクションを熟読し、章全体を読んでおく。 復習:授業の内容を教科書にそってまとめる。
	7	【内容】	【第7週】 神経系2(末梢神経系, 自律神経系)
		【授業外学習】	予習:教科書第14, 15, 17章の各イントロダクションを熟読し、章全体を読んでおく。 復習:授業の内容を教科書にそってまとめる。
	8	【内容】	【第8週】 感覚器系(感覚器とは, 皮膚, 視覚, 平衡感覚器)
		【授業外学習】	予習:教科書第4, 18章の各イントロダクションを熟読し、章全体を読んでおく。 復習:授業の内容を教科書にそってまとめる。
	9	【内容】	【第9週】 消化器系(消化管と消化腺の構成と機能)、中間試験
		【授業外学習】	予習:教科書第25章のイントロダクションを熟読し、章全体を読んでおく。 復習:授業の内容を教科書にそってまとめる。
	10	【内容】	【第10週】 呼吸器系(呼吸器の構成, 胸部の臓器構成)
		【授業外学習】	予習:教科書第24章のイントロダクションを熟読し、章全体を読んでおく。 復習:授業の内容を教科書にそってまとめる。
	11	【内容】	【第11週】 循環器系1(体循環と肺循環, 心臓の構造)
		【授業外学習】	予習:教科書第21章のイントロダクションを熟読し、章全体を読んでおく。 復習:授業の内容を教科書にそってまとめる。
12	【内容】	【第12週】 循環器系2(血管の構造と種類, 主な動脈と静脈, リンパ系)	
	【授業外学習】	予習:教科書第22, 23章の各イントロダクションを熟読し、章全体を読んでおく。 復習:授業の内容を教科書にそってまとめる。	
13	【内容】	【第13週】 内分泌系(ホルモンを分泌する内分泌器官の構造)	
	【授業外学習】	予習:教科書第19章のイントロダクションを熟読し、章全体を読んでおく。 復習:授業の内容を教科書にそってまとめる。	
14	【内容】	【第14週】 泌尿器系(尿作成工場の泌尿器とは)	
	【授業外学習】	予習:教科書第26章のイントロダクションを熟読し、章全体を読んでおく。 復習:授業の内容を教科書にそってまとめる。	
15	【内容】	【第15週】 生殖系・発生学(男女の生殖器の構造, 受精卵から人体が形成されるまでの過程)	
	【授業外学習】	予習:教科書第27章のイントロダクションを熟読し、章全体を読んでおく。 復習:授業の内容を教科書にそってまとめる。	
16	【内容】	【第16週】 期末試験	
	【授業外学習】		
● 授業方法	講義室での講義が中心となるが、教科書・テキストに加え、画像・動画を使い、形態を理解することに務める。適宜、人体骨格模型・臓器模型を観察する。また、顕微鏡またはバーチャルスライドを用いて、組織・細胞を観察する。学生へのフィードバック方法は、適宜対面、メール及びGoogle Classroom、CoursePowerで行う。		

成績の評価方法	<p>日常点: 毎回の講義終了時または次回授業開始時に行う復習テストと受講態度による(30点)。 中間試験: 第9回の授業開始時に、前半の授業内容に関して短時間のテストを行う(20点)。中間試験翌週に正答の解説を行う。 定期試験: 全授業範囲で、理解しているかどうか判断できる試験を行う(50点)。</p>					
成績の評価基準	<p>毎回CoursePowerで小テストを行い、それに加えてレポートと期末試験の総計で60点以上を合格とする。小テストの正答の解説をおこなう。S(90点以上), A(80点から89点), B(70点から79点), C(60点から69点), E(59点以下)</p>					
教科書	No	書籍名	著者名	出版社	価格	ISBN/ISSN
	1.	『カラー 人体解剖学—構造と機能:マイクロからマクロまで』	井上貴央	西村書店	8,190円	978-4890133055
参考文献	No	書籍名	著者名	出版社	価格	ISBN/ISSN
	1.	『解剖トレーニングノート』	竹内修二	医学教育出版社	2,700円	
備考						
関連ホームページ						
メールアドレス	<p>西沢 祐治 nishizawa@fsc.chubu.ac.jp 榊原 明 asakaki@fsc.chubu.ac.jp</p>					
オフィスアワー						

[前画面へ戻る](#)